

古文を声に出して読んでみよう

工藤 昌明先生指導

第一次・第二次指導 第一時

○ 今日と明日、古文を声に出して読んでみようというところを勉強します。家で読んでみた人いますか。読んでみたという人、手を上げてごらん。

(挙手なし)

○ では、家でなくてもこれまで読んでみた人、手を上げてごらん。

(半数挙手)

○ はい、よしよし、下ろしてください。読んでなくても心配ありません。一緒に読めば、よく分かるからね。

〈区画〉

○ はい、では鉛筆一本を用意して、筆入れとか使わない物は机の中にしまってください。鉛筆は、教科書の今日勉強するところに挟んでください。

○ 今日読むところに番号をつけます。鉛筆を持ってください。はじめの「みなさんは」のところに1と書いてください。

(一番前の席の子に、鉛筆を貸す。)

○ 「今は昔」のところに「○」を書いてください。次も、下の方にまた「昔」って書いてあるでしょう。昔の上に○を書いてください。左の方に行くと「日本には」って書いてあるでしょ。「日本には」の上にも「○」を書いてください。一枚めくって、「次の文章は」のところは、2です。そして、「祇園」の上に「○」。下の

「祇園」にも「○」。次のページ、「次の文章は」に3。「月日は」の上に「○」。下の「月日は」にも「○」。

○ 鉛筆は、ノートの今日書くところへ挟んでください。

(児童、指示通り作業する)

○ 読む順番は、今日は、ここから。

(読む順番を後ろの席の子から決めていく)

○ 読む人は、立ってゆっくり大きな声で読んでください。聞く人は、本を持ってしっかり聞いてください。

一 よむ

○ じゃ、読む人、立ってね。

(最初の児童、涙ぐんで読めない)

○ じゃあ、1のところは、私が代わりに読みます。

(教師、1を読む。以下児童九人、順繰り読み。)

○ はい、本を静かに置いてください。今、十人の人に読んでもらいました。読めなかった人もいたけど、読もうという気持ちはよく分かった。読んでくれた九人の人は、大きな声でゆっくり読んでくれた。よかった。

二 とく

〈題目〉 (板書 古文を声に出して読んでみよう)

○ 古文って何だ。

古くから伝わる文章。

○ 古くから伝わる文章が、三つ出てきた。

○ (板書 黒板右上に、小さく横一線。三区画。)

三つ、いえるかな。

○ 1番は、竹取物語。

○ よし、1番は「竹取物語」。

○ (板書 1の下に、竹——)

○ じゃ、2番は、はい。

○ 2番は、平家物語。

○ (板書 2の下に、平——)

○ 3番は、

○ おくのほそ道。

○ (板書 3の下に、お——)

○ 古いというが、どれくらい古いのか。

○ 何百年ね。教科書に書いてある。どれが何年。

○ 平家物語は、今から八百年前。

○ (板書 「平」の下に、八百——)

○ あとは。

○ おくのほそ道は、三百年前。

○ (板書 「お」の下に、三百——)

○ 竹取物語は、何年前ですか。

○ 千年以上前。

○ (板書 「竹」の下に、千——)

○ <ひびき>

○ こんなに古い文章をさつき読んでもらったんですよ。よく読めたね。感心です。古い文章というけれど、これは何語ですか。ど

この国の言葉ですか。

日本語です。

○ 日本の言葉です。古いけれど、声に出して読んでみたら、古くても分かるだろうか。それとも、古いから全く分からないだろうか。古いから全く分からないと思う人。

(挙手なし)

○ 古いけれども分かるだろうと思う人。

(全員挙手)

○ 多分、そうだろうと思います。今日は、その中でも一番古い「竹取物語」を書いて勉強します。千年前の竹取物語という文章なんだけども……。

(板書 竹取物語)

<「竹取物語」の題目の扱い>

○ 「物語」って今でも使うでしょう。「物語」って何。

○ 今でいうお話。

○ お話です。では、「竹取」って何。そこに絵があるでしょう。

○ 竹を取る人。

○ 竹を取る人です。竹取の、その絵に出ているのは、若者か。

○ おじいさん。

○ おじいさんのことを、何と書いてあったか。

○ おきなという。

(板書 おきな)

○ 名前も分かっている。なんという名前か。

○ さぬきのみやつこ。

(板書 さぬき——)

「竹取物語」のひびきの扱ひ

- おじいさんの話のようだけど、大事な人がもう一人出てくる。有名な人は誰でしょうか。

かぐやひめ。

(板書 かぐやひめ)

- かぐや姫は、知ってるでしょう。

〈手引き〉

- かぐや姫と竹取のおきなのお話だね。「竹取物語」というのは、本当は、長いお話。その長いお話の最初のところが書かれている。今日は、かぐや姫と竹取のおきなが出会ったところを書きます。どこを書くか分かるか。千年前の文章を千年前の字で書いてください。

三 よむ
四 かく

その竹の中に、もと光

る竹なむ一筋ありける。

あやしがりて、寄りて

見るに、つつの中光り

たり。それを見れば、

三寸ばかりなる人、

いとうつくしうて

ゐたり。

(暗写で板書)

五 よむ (順繰り読み 一よむの続きの一名)

六 とく

〈語義〉

- 難しい字。「ゐ」の字。見たことがあるか。
ある。
- 五十音図で言ったたら、どの字。
ワ行の「い」の字。
- 分からない言葉は、ありませんか。
……。
- 一回、私が、現代文を読んでみます。
(児童、板書を見て聞いている)
分からない言葉はないかな。
大丈夫です。
- では、これ(あやしがりて)は。
あやしい。
- 今のあやしいと、ちよつと違う。
不思議。
- うん、不思議ってことだね。では、これ(うつくしう)は。
うつくしい。
- 今は、美しい。千年前は。美しいとはちよつと違う。
かわいらしい。
- 「いと」、「いと」かわいらしい。どういう意味だろう。
本当に。
- 「いとうつくしう」は、本当にかわいらしいということですね。

〈区分〉

- 二つに分けます。どこで分けるか。
……。
- こう分けます。
(板書 前半は、初めくそれを見ればの上方に弧線。後半は、三寸ばかりく最後の上方に弧線)
- 二人が出会った場面です。おきなのこととかぐや姫のことに分ける。どちらがおきなのことか。
(口々に) 前。
- こっち(前半)は、おきなのこと(板書 お) 後ろは、かぐや姫のこと(板書 か)。
……。
- 「あたり」は、いましたではなく、座っていたということ。どこに座っていたのか。
竹の中。
- 三寸ばかりという大きさですよ。そのかぐや姫が座っていた。どのくらいの竹か。これ(むちを見せながら)これも竹ですけど、
どうか。
かなり太い。
- 座っていたのは、竹の上の方か下の方か。
下の方。
- こっち(前)では、どこにいたと書いてあるか。
つつの中。
- ここ(つつ)に傍線)にいたんだよ。竹はどのくらいあるの。
一本だけでしたか。
いっぱい。
- いっぱいある竹林の中ですから、昼でも暗い。
……。
- おきなのしたこと、漢字一つでいったら何。前の方にあるどの字か。
寄りて。
- これ(寄を指し)じゃない。この後にしたこと。何のために寄ったの。
見るためです。
- (板書 見)を赤丸で囲む)
見たんです。おじいさん、最初に見たのは何。
光っているところ。
- 光っている竹、一本。最初に見たのはこれ。次に見たのは。竹のつつの中。
(板書 一筋)に赤傍線と①、つつ)に朱傍線と②)
最後に見たのは。
- (座ったままで)手のひらサイズの人。(笑)
この文の言葉でいうと。
三寸ばかりなる人。
- (板書 人)に朱傍線と③)
三寸ばかりなる人は、だれだ。
かぐや姫。
- かぐや姫の様子は、どうだ。
いとうつくし。
- (板書 いとうつくし)に傍点)
「いと」は、「とても」うつくしいということ。「とても」には段階があるんだよ。「ちよつととても」なのか「普通にととても」な

のか「すごくとても」なのか。

(口々に) すごく。

○ 「すごく」とてもということ。こっち(前半部分)で言えば、どの字で言える。どうしてもすごいつつと思つたのか。

光る。

○ 光っている。光るくらい、「いと」かわいい。

(板書) うつくしを黄色で囲み、周囲に光を表す放

射線を黄色でつける)

〈心〉

○ これを見ておじいさんは、どう思つたか。

不思議。

○ この文章の中の言葉で言えば。

あやし。

(板書) あやしを赤で囲む)

○ うん、あやし。これは、あやしいと思うね。光っている竹、見たことあるか。

(口々に) ない。

○ これがかぐや姫のお話の最初に書いてある文章です。

七よむ

○ 読んで終わりにしましょう。

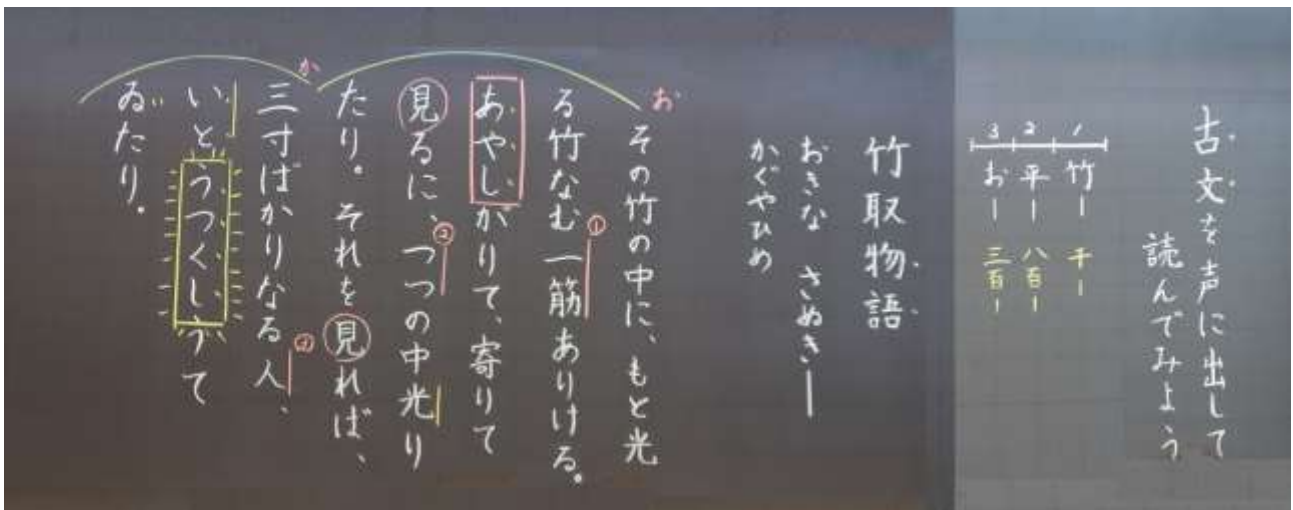
(指音読 二回)

〈余韻〉

○ 明日は、ここ(2に○印)をやります。

(四十五分)

〈板書事項〉



合成写真

第二時 (第一次・二次指導合わせた指導)

(始まりの挨拶まで、用具の準備を指示したり、子どもを落ち着かせるように穏やかに話をしたりする。)

○ 今日書くところのノートに、鉛筆を挟んでください。教科書はすぐに読むから用意しておいてね。

○ それじゃあ、始めましょう。

起立、注目。はい。始めます。

○ はい、座って。(全体を見て) 夏休みの今日、三日目です。よく来てくれて、いっぱい来てくれて大変ありがたいなあと思っっています。今日一日、この時間だけです。しっかりやりましょう。

一 よむ

○ 今日もまず、読んでもらいます。なにせ、千年前の文章だからね。昨日、最後に読んだのは、あなた、(読んだ児童の目を見て確認し) じゃあ、今日の最初はあなたから、1のところ、最初の○「皆さんは」のところ。次は、あなた、次の○「今は昔」……。

(十区画それぞれ、だれがどこを読むのかを一人一人の目を見て丁寧に確認)

○ 読む人は本を持って、立って大きな声でゆっくり読んでください。聞く人は、どうするんだっけ。聞く人も本を持って一生懸命聞いてください。千年前の文章だよ。

はい、あなたからお願いします。

(最初の区画を音読。少々読みがたどしいが、他の児童は、静かに聞きながら黙読している。音読に

たどしい部分があると、教師がその部分を範読し、児童はそれを聞いて最後まで音読することができ、ほっとした様子)

○ よし。

(二番目の区画を音読。前の児童が読み終わったら、次々に音読。読み間違いや読みにくそうな語句の正しい読み方をその都度指導。)

○ はい、本を静かに置いてください。昨日の十人も今日の十人もゆっくり読めた。大きな声で読んでくれました。とってもよかったです。

二 とく

(おさらい)

○ さあ、昨日の勉強をちよつと思ひ出してみようかな。

(板書 竹― 黒板右端中央に、丁寧に)

○ 昨日は「竹取物語」というのをやりました。誰が出てきたのか覚えてる。分かった人は、手を挙げてね。はい、あなた。

竹取のおじいさん。

○ 竹取の翁、おじいさんが出てきました。

(板書 お― 竹の右下に、丁寧に)

○ もう一人、大事な人が出てきました。誰だったかな。

はい、あなた。

かぐやひめ。

○ かぐやひめです。

(板書 か― 竹の左に、丁寧に)

○ かぐやひめは、どこにいたんだったかな。手を挙げてね。
はい、あなた。

竹の中。
○ 竹の中にいたのにどうして分かったの。手を挙げて答えてね。
はい、あなた。

根元が、光ったから。

(板書 おーとかーの間に 光 と黄色で)

○ 竹の根元、上の方じゃなくて、下の方が光ったから。
○ 竹が光ったのを見たことある。

ない。

○ ないね。それで、おじいさん、どう思ったんだっけ。はい。

不思議に。

○ 千年前の言葉でいうと。

あやしがりて。

○ 今日は、次のお話です。

(題目) (板書 平家物語 丁寧に)

○ 物語は、お話だったね。最初に出てきた竹取物語は、竹取のお
じいさんとかぐやひめのお話でした。今日は、平家物語。これは、
何だろう。(板書 平家 の横に傍点) 平家って何か分かる。

……

○ 分からない。「家(け)」は分かる。何とか家というのは知って
いるでしょう。

ああ。

○ 何々家のけです。じゃあ、平(へい)って何。平家(へいけ)

という名字だね。でも、平(へい)は何読みだ。

音読み。

○ 訓読みにしたら。

たいら。

○ 平さんって人、知ってる。(児童、首をかしげる)知らない。「た
いら家」のお話。

三 よむ

四 かく

○ 今日は、八百年前の文章をノートに書いて勉強します。難しい
漢字があるけど、できれば漢字で書いてね。

○ ノートを開いて。じゃあ、八百年前の文章を書き始めてくださ
い。

ノートを空けた方がいいですか。

○ ちょっと空けた方がいいね。

(児童は、静かに集中して、平家物語を視写。

教師もゆっくり丁寧に平家物語の全文を板書)

祇園精舎のかねの声、

諸行無常のひびきあり。

沙羅双樹の花の色、

盛者必衰のこころをあらはす。

おごれる人も久しからず、

ただ春の夜の夢のごとし。

たけき者もつひにはほろびぬ、

ひとへに風の前のちりに同じ。

(板書後、一行ずつ丁寧に確認)

五 よむ

○ みなさん、書き終わったの。

(机間指導 よし、よしと声掛け)

○ 鉛筆はそのままノートに挟んで、黒板で勉強するから教科書も閉じて、ノートの上に置いてください。次の人、立って黒板を読んでください。仮名がふってないけど、読めるかな。挑戦してみよう。はい、どうぞ。

(正しく読めるように、読みづらそうにしている語句の読み方を指導)

○ よし。

○ もう一人。はい、どうぞ。大きな声で頼むよ。

はい。(他の児童の、頑張れの声あり)

(正しく読めるように読みづらそうにしている箇所の読み方を指導)

○ よし。

○ それじゃあね、(現代文を音読する児童を確認し)教科書を見て現代文を読んでね。今の日本語が下に書いてあるから。他のみなさんは、黒板を見ながら意味が分かるか考えながら聞いてね。

(教師は、現代文の音読に合わせて、「平家物語」の同じ意味の箇所を鞭で指し、児童は、現代文の音読を聞きながら、鞭が指す板書を確認)

○ よし。

六 とく

(語義)

○ さて、もう分からない言葉はありませんか。

あります。(つぶやきあり)

○ 手を挙げて言ってください。

はい、どうぞ。

盛者必衰と諸行無常の意味です。

○ ああ、なるほど。これね、盛者必衰(ゆつくりと読みながら傍点)。これの分かるところはどこですか。知っている字、あるですよ。じゃあ分かる。

必と者。

○ 必(ひつ)。これは、必ずです。じゃあ、者(しゃ)は、

者(もの と口々に)

○ 者(もの)と同じ意味の言葉はないか、こっち(後半)に。

人。

○ うん。人です。(人)を黄色で囲む)者(もの)は人でしょ。こ

こにも者(もの)がありますよね。

(板書 たけき者、盛者 必衰の者を黄色で囲む)

○ 者(もの)っていうのは人でしょ。ここでも、者は、ある人です。盛者必衰の必(ひつ)は、必ず、者(もの)は人です。

○ 盛(じょう)は何だ。

盛る。

○ 盛るなんだよね。

盛り。(口々に)

○ 盛り。

「盛る」

○ 「盛る」、すばらしい。

- たくさん盛るから繁榮する、榮えること。そういう意味です。
 - これ(衰…すい)は何だ。
衰える。
 - 衰える。こっちは、榮える。必ず衰える。盛えた人も必ず衰えるっていうのが盛者必衰。あと何だっけ。
諸行無常。
 - 全てのものは移り変わるって書いてあるね。諸行は、世の中全
てのもの。無常の無は、分かるでしょ。
無い。
 - 無い。これ(常)は分かる。
常識とか。常とか。(つぶやき)
 - 常(つね)っていうのは普段のこと。諸行は、世の中全てのこ
とです。全てのこと常だと思っしょ。実は、常では無いんだ
よっていうことをいっているんだね。
 - 他にはないかな。これ(沙羅双樹)は。
樹(き)って書いてある。
 - そうそう。樹(き)のこと。沙羅という樹がある。
 - 双(そう)は。
双子。
 - そう。双子。賢いね。
二本。
 - 二本の樹。二本だけど、一対ということ。沙羅という一対の樹
ということ。もう、これで大丈夫か。
- (区分)
- この文章は、いくつできています。丸(○)の数を勘定したら分
かるでしょ。手を挙げて。

- 四つ。
 - はい、四つです。ここが一つ目(板書 1)。ここが二つ目(板書 2)。ここが三つ目(板書 3)。ここが四つ目(板書 4)です。
全体を二つに分けたんですけど、どこで分けたらいいと思う。
二つに分ける。複雑。(つぶやき)
 - あまり難しくありません。ここ(1)だと思っ人。
……。
 - ここ(2)だと思っ人。
(挙手多数)
 - 多数決ではないけれど、ここ(2)で分ける。
 - 前と後ろ、何が違う。はい、あなた。
漢字が多い。
 - 大事なことは、漢字の何でしょう。ここ(平)と一緒にしよ。
手を挙げて言っごらん。はい、あなた。
音読みと訓読みが違う。
 - どっちが音読みだ、前と後ろで。
前は音読み。後は訓読みになっている。
 - うん。前も下の方は訓読みになっていますけど、音読みと訓読みが
違う。
 - 音読みはこの読み方。
外国。(つぶやき)
 - 音読みって外国だけど、どこの国。はい、あなた。
中華人民共和国。
 - 今でいうと、中華人民共和国。中国の言い方だっって五年生で習
ったよね。これは中国から伝わった読み方なんです。こっちは同
じ漢字だけど、日本の意味に当てはめて読んでいますよ。
- 〈心〉

- 後ろから考えます。おごれる人（傍点）と似たようなものはどこにないか。同じじゃないけどおごれる人と似たようなものはどうでしょう。はい、あなた。
たけき者。
 - たけき者、似ていないか、これ。
おお。ああ。（つぶやき）
 - こっちはちよつとね、威張りくさっている人、自分勝手な人。こっちは、強くて勇ましいっていう意味なんだけど、何か共通しているでしょ。
（納得するうなずき多数）
 - 久しからずって分かる。
……
 - 久しいの久（きゆう）は分かる。長く続くことだよ。
永久。（つぶやき）
 - 永久の久だよ。久しからずだから、長く続くか……。
続かない。（多数つぶやき）
 - おごれる人も続かない。たけき人は、ついにはって何だ。
滅びぬ。（多数つぶやき）
 - ついにはってというのは、最後は……。 （ささやくように）
最後はだれでも滅びる。（多数つぶやき）
 - 最後は滅びる。
そしたら**3**番と**4**番は似ていない。似てるでしょ。
似ている。（つぶやき）
 - この中に平家がいるかどうか。
いる。（つぶやき）
 - 平家物語だから。
 - 平家はどこにいるか。これは書いていないです。皆さんどうぞ考えてください。はい、あなた。
-
- たけき者の中。
 - これは、平家。いいかな、そう思う。分からないね、書いてないからね。でも実はそうなんです。たけき者は、ついにはどうなったの。
滅びた。（つぶやき）
 - おごっている人、これも……。
滅びた。（つぶやき）
 - 続かなかつた。だから、おごれる人やたけき者は、誰のことをいつているか。
平家。（つぶやき）
 - ちゃんと題に書いてある。平家の物語だから平家。平家の人って一人ですか。
ちがう。もっとたくさんいる。（つぶやき）
 - 実は、竹取物語と平家物語の大きな違い（強調する声でゆっくりと）は、平家物語は、実際にあった何が基になっているの。
戦い。（つぶやき）
（板書 題 平家物語の左側に黄色で 戦い）
 - だから、竹取物語とは全く違う話だよ。おごれる平家、たけき平家は、長く続かずに滅びちゃったというお話です。
 - 前の方、さあ、ここに書いてあることで後ろと同じことを言っているのはどこでしょう。
どっちかなあ（諸行無常と盛者必衰で迷う）
大きな声で、はい。
 - 盛者必衰のことわりをあらはす、のところ。
盛者必衰。これはね、まさに、その通り。こっち（諸行無常）は全体のことを言っているからね。盛者必衰。つまり栄えた者は必ず衰えるっていうことを前でも言っているということなんだけど、難しいね。

○ 祇園精舎(お寺)はどこにあったかという、インドで、沙羅双樹の樹はどこにあったかという、インドなんです。インドのことを中国語に直して音読みしている。もう、大人でもよく分かりません。

○ 盛者必衰、これは、平家だけの話だと思う。

平家だけの話じゃない。

○ 平家だけの話じゃない。だから八百年間ずっとみんな読んでいる。意味があるんだよ。というお話です。

七よむ

○ 読んで終わりにしましょう。読めるかな。挑戦！ちよつと腰を立てて。祇園精舎の…。

(指音読 沙羅双樹の読み方を確認)

○ ようし。今のは練習だ。

○ 二回目、じゃあ本番。おつきな声で行くぞ。祇園精舎の、はい。

(指音読)

○ いろいろ難しい言葉があつて分からないこともたくさんあつたと思うけど、教科書を読むと下にちゃんと意味が書いてあるから、何回も読んで覚えて、何かあつたときには、「それは、盛者必衰だよ」なんて使ってみてください。

○ 二日間、一生懸命にやってくれてありがとう。次の「奥の細道」は、この辺に関係のあるお話だからね。是非、先生と一緒にしっかり勉強してみてください。

○ 終わりにします。姿勢をよくして。

起立、注目。二日間ありがとうございました。

○ こちらこそ、ありがとうございました。(礼)

